

令和6年度 第1回学校評議員会並びに学校関係者評価委員会報告

1 日時 令和6年6月28日(金) 11:00~12:00 場所:あやぐも館

2 参加者

学校評議員(五十音順)

井上 恵一(野村石油(株)代表取締役)
熊谷 琢磨(株)フローラルクマガイ代表取締役)
山岡 三枝(西予市野城総合福祉協会事務局長)

学校関係者評価委員(五十音順)

岡部 一行(城川中学校教頭)
酒井 康次(西予市野村支所産業建設課長)
谷本 英樹(有限会社タニヤ代表取締役)
西田 卓史(野村中学校教頭)

野村高校学校職員

松井 由紀子(校長)
一色 卓也(教頭)
濱田 洋光(事務長)
門田 生(総務課長)
小西 真由子(教務課長)
中島 定信(生徒課長)
徳永 裕史(進路課長)
松木 敦志(学校魅力推進課長)
兵頭 宏美(農場長)
千羽 孝幸(総務課)
宮岡 武(総務課)



3 次第

(1) 開会の言葉

(2) 校長あいさつ

(3) 議題

ア 自己紹介

イ 令和5年度自己評価等説明(教頭)

ウ 各課説明(各課長)

各課長より資料にて説明

エ 意見交換

○部活動について

- ・生徒数の減少により部活動の継続が困難になり、大会等への参加が難しくなるのは残念。
- ・ぜひとも部活動の存続に力を入れていただきたい。

○生徒の交通安全について

- ・普段の出勤で生徒の自転車と接触しかけた。ぜひ安全なルートや交通についての指導をして欲しい。

○学校の取組について

- ・生徒数が減少する中で生徒の個性を生かせる学校になっていると実感した。
- ・教科横断的な取組も素晴らしい。
- ・動物ふれあいの活動など地域との交流についてもテレビの取材もあり、盛んに活動していると感じる。ぜひ継続していただきたい。また、中学校の文化祭等にも参加していただきたい。

- ・野村中学校、城川中学校との交流事業であるフレンドリースクールは中学生にとって進路選択の大変良い機会となっている。今後も続けてもらいたい。
- ・生徒減による活動の縮小に対して、地域も危機感がある。九州では学校存続のためにマンガ学科など特色のある学科を作っていると聞いた。市としてもなにかできないかを検討したい。また、畜産科には大野ヶ原のホワイト六片にんにくの栽培への協力をいただいている。こういった取り組みが役に立てばと思う。
- ・地域みらい留学の東京での説明会に今年は生徒を連れていくと聞いた。現役の高校生の声を伝えて、少しでも野村高校に来たいという生徒を増やしてほしい。
- ・農業クラブの頑張りをを感じる。昨年度の取組等もどんどん発信してほしい。
- ・部活動に関してはやり投げで和氣くんの活躍が新聞に出ていた。陸上の頑張りに大いに期待している。相撲部の取組も後援会としても応援している。
- ・夏のオープンハイスクールに期待している生徒も多く、進路希望を取って野村高校を希望している生徒も多い。テレビで動物ふれあい部の報道があった際は中学生たちもよく話をしていて、今後に取り組みに期待したい。

○その他

- ・数年前から農村の暮らしを体験するという修学旅行が流行っている。八幡浜ふるさと観光公社が受け入れを始めており、野村自治振興会でも受け入れに力を入れている。結果、令和3年からいくつかの中学校からの修学旅行の希望がある。5月に2校、6月に2校、7月に1校、10月に5校の希望があり、数校は受け入れ数上限のためお断りをするほど。全国から修学旅行先として野村に焦点が当たっており、今後も数は増えていく見込み。高校との連携も図っていきたいと考えている。

- (4) 事務連絡
- (5) 校長あいさつ
- (6) 閉会の言葉